

# 京都教区時報

カトリック京都司教区  
 広報委員会  
 京都市中京区  
 河原町通三条上る  
 TEL 075-211-3025  
 FAX 075-211-3041  
 honbu@kyoto.catholic.jp

<https://www.kyoto-catholic.net/>

そのイベントは、誰もが「Pride自尊心」をもって生きられる社会づくりを目指す、LGBTQ性的少数者のトークセッションでした。一人の登壇者が「LGBTQフレンドリーとは、当事者と出会った時に、こんにちは！」と親しく話しか


はってしました。そうはいっても、仕事や介護や教会の役員仕事で（↑さりげなく教会での頑張りアピール）、毎日フル回転の私。この上隣人も引き受ける余裕はあるのか？と、再び自己弁護の気持ちで湧き上がってきたとき、あるイベントで聞いた言葉に

「隣人とはだれかを決めてから『探す』ものではなくて、出会った人の隣人に『なる』ものだ」という2024年司教年頭書簡の問いかけは、私の心にグサグサと突き刺さりました。よそ様のプライベートに踏み込むことはあまりよろしくないからね、という、ちょっと見、配慮をしているような言い訳をつぶやきながら、助けを求めている人が周りにいないかどうか、見まわさないようにしている小ズルい自分を見透かされた思いでした。やっけないと自覚しながら、ごまかしていたことを指摘され、私は大反省をしたのでした。

「隣人とはだれかを決めてから『探す』ものではなくて、出会った人の隣人に『なる』ものだ」という2024年司教年頭書簡の問いかけは、私の心にグサグサと突き刺さりました。よそ様のプライベートに踏み込むことはあまりよろしくないからね、という、ちょっと見、配慮をしているような言い訳をつぶやきながら、助けを求めている人が周りにいないかどうか、見まわさないようにしている小ズルい自分を見透かされた思いでした。やっけないと自覚しながら、ごまかしていたことを指摘され、私は大反省をしたのでした。

「隣人とはだれかを決めてから『探す』ものではなくて、出会った人の隣人に『なる』ものだ」という2024年司教年頭書簡の問いかけは、私の心にグサグサと突き刺さりました。よそ様のプライベートに踏み込むことはあまりよろしくないからね、という、ちょっと見、配慮をしているような言い訳をつぶやきながら、助けを求めている人が周りにいないかどうか、見まわさないようにしている小ズルい自分を見透かされた思いでした。やっけないと自覚しながら、ごまかしていたことを指摘され、私は大反省をしたのでした。

2024年 司教年頭書簡  
 わたしのシノダリティを創ろうII  
 シノドスがめざす〈道〉と〈宿〉の宣教を受けて



## 第8回 私に今できる隣人としての歩み

けてください、というようなことではありません。当事者が気を遣わないでいい環境、その場にいることを自然に受け入れる雰囲気をつくるということです」というのを聞いて、「これならできる！ これも隣人との出会いの一形態ではないか？」と思ったのでした。

「隣人とはだれかを決めてから『探す』ものではなくて、出会った人の隣人に『なる』ものだ」という2024年司教年頭書簡の問いかけは、私の心にグサグサと突き刺さりました。よそ様のプライベートに踏み込むことはあまりよろしくないからね、という、ちょっと見、配慮をしているような言い訳をつぶやきながら、助けを求めている人が周りにいないかどうか、見まわさないようにしている小ズルい自分を見透かされた思いでした。やっけないと自覚しながら、ごまかしていたことを指摘され、私は大反省をしたのでした。

「隣人とはだれかを決めてから『探す』ものではなくて、出会った人の隣人に『なる』ものだ」という2024年司教年頭書簡の問いかけは、私の心にグサグサと突き刺さりました。よそ様のプライベートに踏み込むことはあまりよろしくないからね、という、ちょっと見、配慮をしているような言い訳をつぶやきながら、助けを求めている人が周りにいないかどうか、見まわさないようにしている小ズルい自分を見透かされた思いでした。やっけないと自覚しながら、ごまかしていたことを指摘され、私は大反省をしたのでした。

「隣人とはだれかを決めてから『探す』ものではなくて、出会った人の隣人に『なる』ものだ」という2024年司教年頭書簡の問いかけは、私の心にグサグサと突き刺さりました。よそ様のプライベートに踏み込むことはあまりよろしくないからね、という、ちょっと見、配慮をしているような言い訳をつぶやきながら、助けを求めている人が周りにいないかどうか、見まわさないようにしている小ズルい自分を見透かされた思いでした。やっけないと自覚しながら、ごまかしていたことを指摘され、私は大反省をしたのでした。

「隣人とはだれかを決めてから『探す』ものではなくて、出会った人の隣人に『なる』ものだ」という2024年司教年頭書簡の問いかけは、私の心にグサグサと突き刺さりました。よそ様のプライベートに踏み込むことはあまりよろしくないからね、という、ちょっと見、配慮をしているような言い訳をつぶやきながら、助けを求めている人が周りにいないかどうか、見まわさないようにしている小ズルい自分を見透かされた思いでした。やっけないと自覚しながら、ごまかしていたことを指摘され、私は大反省をしたのでした。

桃山教会信徒 土持 直子

9  
2024



ありがとう ウィリアム神父さま

今年の3月まで9年間、京都南部地区洛北ブロックでご奉仕くださったウィリアム・セルジュ・バティオノ神父さまは、所属しておられる聖ヴィアートル修道会が日本からの撤退を決められたので、日本を離れられることになりました。

種々の手続きに東奔西走されている神父さまにお時間をとっていただき、河原町カトリック会館でお話を伺いました。

(6月27日取材)

\*\*\*\*\*

アフリカのブルキナファソ出身

1974年、私はアフリカのブルキナファソで、6人兄妹の長男として生まれました。

ブルキナファソで信仰されている宗教はイスラム教が一番多く、カトリックは2番目です。家族で宗教が違うこともよくありますが、違ってもみな仲良し



で、クリスマスにイスラム教の人が、カトリックの教会に来ることもありましたが、小さい時から教会に通い侍者をしていて、将来は司祭になりたいと思っていました。

大学に入学しましたが、国は政情不安で軍事クーデターが起こり、勉強したことがすべて白紙にされてしまいました。

聖ヴィアートル修道会入会

2000年10月、青少年の教育を担う聖ヴィアートル修道会がブルキナファソに宣教に入り、学校を運営することになりました。

そのころのブルキナファソは男性しか家督を継げず、長男が結婚しないと妹たちが結婚できないなど男性優位の国でした。父や妹たちは私の修道会入会に反対しましたが、2001年、私はブルキナファソでの聖ヴィアートル修道会の最初の志願者になりました。そして2005年、初誓願を宣立してブラザーになり、聖ヴィアートル修道会が運営する学校に勤務し、充実した毎日を送っていました。

想像もなかった日本への派遣

2007年、修道会から日本派遣を打診されました。何度も断りましたが、試しに行ってみるようになると言われ、行ってみたら楽しくて、正式に日本に派遣されることになりました。

翌年、南山大学留学生別科に入り、まず日本語の勉強から始めました。

ちょうどそのころ、父が事故で帰天しました。私が修道会に入ることに反対していた父でしたが、最後は「諦めないで司祭になってほしい。私のためにミサを立ててほしい」と言ってくれました。

日本での勉強と司祭叙階

その後、上智大学神学部に入り、司祭になるための勉強と、教員免許を取るための勉強を続けました。

2014年4月、北白川教会において助祭に叙階され、2015年4月、京都教区のカテドラル河原町教会において、大塚司教様から司祭に叙階されました。新司祭の1年間は、滋賀県の天津、唐崎、安曇川教会で司牧をしました。

司祭として、忙しく充実した日々

2016年、洛北ブロックの担当司祭



司祭叙階式  
2015年 4月18日

に任命され、聖ヴィアートル修道会が持つ北白川教会の司牧とともに、洛北ブロックのミサや葬儀も担いました。近隣の女子修道会の平日のミサにも行き、シスターたちにお世話になりました。また、京都教区信仰教育委員会の担当司祭、カリタスジャパン委員会の担当の仕事もしました。

2015年から今年日本を立つまで、洛星中学校高等学校の宗教の教員として授業を持ち、学校のチャプレンや理事も務めました。

多くの方々に、「ウィリアム神父さま、忙しすぎませんか」と言われました。でも、私は忙しい毎日だったからこそ、元気に過ごせてきたように思います。

司祭に叙階された時から、思いがけないほどたくさん役目を与えていただきました。私を信頼して任せてくださった



北白川教会での復活祭ミサ  
2024年3月31日



インタビュー後、  
河原町教会聖堂にて



ウィリアム神父さまから写真が届きました  
教皇フランシスコに謁見 パチカンにて

大塚司教様に心から感謝しています。

**新たな派遣**

父との約束は果たせました。そして現在、妹たちはイタリアやイギリスに住んで結婚しています。ブルキナファソに一人で住んでいる母は病気のために目が見えなくなりましたが、毎日のように電話をかけてきます。

7月1日に日本を離れ、ローマに行きます。そして1か月の会議の後、聖ヴィアートル修道会の管区本部があるカナダに行くことになっています。そのあとのことは今、わかりません。でも、神様が何か次の使命を準備してくださっていることを楽しみに待ちたいと思います。

司祭として、まだまだ赤ちゃんのようだった私をこうして成長させてくださった大塚司教様と京都教区の皆さま、本当

にありがとうございました。心から感謝しています。ニワトリが毎朝「コケッコ」と鳴くように、私も毎日京都教区の皆さまに感謝の祈りを捧げます。どうぞお元気で！

\*\*\*\*\*

いつもの笑顔でお話ししてくださったウィリアム神父さま。ウィリアム神父さまのおかげで、ブルキナファソという国を知ることができました。

どこに行かれても、持ち前の明るさでお元気に活躍されることと思います。神父さまのご健康をお祈りしています。心からの感謝をこめて。

広報委員会



ちいさなひとびとの♪  
カトリック聴覚障害者の会京都グループ

京都教区の皆様には久しぶりにお目にかかります。「カトリック聴覚障害者の会京都グループ」です。2004年4月1日発行の教区時報(317号)に「カトリック聴覚障害者の会京都グループ」のことを載せていただきました。えっ！今も続いているの？と思われたことでしょうか。おかげさまで現在も続けております。

そもそも「カトリック聴覚障害者の会京都グループ」は何のためにあるの？何をやっているの？といいますが、教会に來られる聴覚障害のある方が皆さんと一緒にミサに与れるように、手話という言語で情報保障していく、そのために教会で通用する手話を学ぶ会といったら、ご理解いただけるでしょうか。

### 会の始まり

「カトリック聴覚障害者の会京都グループ」の歴史は古く、終戦間もなくアメリカから來日されたメリノール宣教会のヘスラー神父様が、耳の聞こえない求道者に公教要理を教えられたことがきっかけとなり、それからたくさん聴覚障害者が河原町教会の門をくぐりました。



手話学習会の様子

しかし、ヘスラー神父様はアメリカへ帰られ、代わりにホワイト神父様が來日されました。ホワイト神父様は片言の手話で聴覚障害者とコミュニケーションをとられていたそうで、ある年のクリスマスミサに100人近い聴覚障害者が河原町教会に集まったと聞いています。そのほかにもクリスマススタブロー(聖劇)の集合写真に、なんと古屋司教様が一緒に写っておられました。

残念ながらホワイト神父様も離日され、聴覚障害者の集まり(当時は「京都グループ」という名称ではありません)は自然消滅となり、洗礼を受けたメンバーも教会から離れていき、再び教会の門をくぐることはありませんでした。

### 国際障害者年

京都グループが今の形になってきたのは、1980年にスタートした国際障害者年からです。

東京の麹町(イグナチオ)教会での大会ミサに、初めて手話通訳が付きました。ミサに手話通訳が付くということで、大阪、京都からの聴覚障害者が参加されたことは驚きでした。当時のローマ教皇庁大使マリオ・ビオ・ガスパリ大司教様から「(聴覚障害者の)皆さんの願いを必ず神さまはお聞き届けてくださいます。頑張ってください」と励ましていただき、「自分たちの地域でも手話通訳付きミサを根付かせよう!」とそれぞれの地に散らばっていきました。

### ミサに手話通訳

けれどもその道は決して平たんなものではありませんでした。1983年10月、京都にて「日本カトリック聴覚障害者の会」の前身となる集まりを開催しました。田中司教様は聴覚障害者の集まりで、初めてミサを司式してくださいました。初め、初めてミサを司式してくださいました。小羊会の伊達よしえ様にも大変お世話になりました。それでもミサに手話通訳がつくことについて難色を示された教会がほとんどで、「どうしても手話を付けたいのなら、泣き部屋(赤ちゃん連れの方の部屋)に行ってください」「神父様のご迷惑にな



黙想会のミサでの手話通訳

りますから、一番うしろの席で目立たないようにお願いします」などと言われたものでした。困り果てて、「どうしたらいいでしょう」と人権福祉委員会担当の相馬司教様に手紙で訴えたものでした。幸い、相馬司教様の鶴の一声で、神学校のカリキュラムに手話を取り入れられました。

今では聴覚障害者の集まりに手話通訳付ミサではなく、必然的に手話ミサが行われるようになりました。手話ミサに与り、周囲を見回せば、そこには共に泣き、笑い、支えあい、励ましあってきた京都グループのかつて20人近くいた聴覚障害者の仲間たちの姿はもうなく、一抹の寂しさを感じます。

毎月手話学習会を開催

「カトリック聴覚障害者の会京都グループ」は毎月第3火曜日の午後1時に河原

町教会にて手話学習会(例会)を続けています。時々、菅原神父様が講話をしてくださいます。聴覚障害者の方(現在2名)に会員が交代で手話通訳をしています。聖書の言葉は日常会話と違い、なかなか表現が難しいので、聴覚障害者の方にちゃんと伝わっているといいなと試行錯誤しつつ、毎回10人以上の会員が手話を頑張っています。

京都グループ担当司祭の柳本神父様が年3回ほど手話ミサをしてくださいますので、会員全員で聖歌、朗読、祈願などを担当しています。京都グループの例会日、黙想会、クリスマス会などのお知らせを教区時報に掲載していただいています。ご都合がつけばぜひ覗いてみてくださいね。お待ちしています。

最後に、タイトルを「ちいさなひとびとの」にしたのは天国の聴覚障害者の方が好きだった聖歌のひとつだからです。ことばが易しいので、手話ミサでは何度も歌われています。

神に感謝。

カトリック聴覚障害者の会  
京都グループ 阿野恵子

※「ちいさなひとびとの」の歌詞につきましては、いろいろなご意見があります。が、当時の会の方々の想いを尊重して取り上げることになりました。

広報委員会



黙想会後の集合写真  
ヌヴェール愛徳修道会本部修道院にて

## 病者高齢者奉仕講座

6月20日(木)

### 病者訪問の基本を学び直そう

「病者高齢者奉仕講座」を、4年ぶりに対面で開催しました。講師は、京都教区の小立花忠神父で、「病者訪問を学ぶ—秘跡と訪問の基本」というテーマで、講話とグループのわかちあいが行われました。

コロナ禍を経て、教会が伝統的に大切にしてきた病者訪問が難しくなりましたが、病気や高齢等の様々な事情で教会に行くことが困難な人々が増え、訪問や互いのつながりの必要性をより痛感する昨今の現状があります。今回の講座は、そのような現状を踏まえ、病者訪問の基本を学び直し、どのように互いに病者高齢者への奉仕を続けていけるのかが主眼でした。

### 教会の普遍的な使命

小立花神父の講話は、初期キリスト教時代から現代にいたるまでの「聖体」に関する歴史と病者訪問実践の際の基本的なポイントについてでした。中でも、「神からの贈り物」である「聖体」によって、強く結ばれてきた教会の歴史を体系的にふり返ることを通して、教会が現



状の課題に向き合い、神と人々との交わりを中心に、神の働きである「秘跡」の尊さ、偉大さを再認識することの大切さ

を学びました。また、教会の歩みというプロセスにおいて、信徒が担うべき役割が明らかになってきました。そして、全信者が、どのような状況下でも神とのつながりを保ち、豊かに信仰生活を送ることができるよう支援する教会の普遍的な使命をあらためて実感することができました。

講話後には質疑応答も活発に行われました。教会のあり方も、コロナ禍によって大きな影響を受けましたが、教会として歴史を通じて大切に継承してきたことを再確認し、互いにつながっていくようにする参加者からの熱意が感じられました。

### 「霊における会話」でわかちあい

講座の後半は、4、5人のグループでわかちあいを行いました。このわかちあいは、シノドス第16回通常総会で用いられた「霊における会話」の方法を応用し、まず、一人ひとり、沈黙で講話の内容をふり返る時間を設けました。祈りのうち

に、個々に心に響いたこと等を思い巡らした後、お互いのわかちあいに耳を傾け合いました。次に、再度祈りの中で、耳を傾けたことからもっとも深く感動したこと、もっとも大きな課題と感じたこと等を表現するわかちあいへと進めました。講師の小立花神父もわかちあいのグループに加わってくださり、和やかな雰囲気を感じられるひと時でした。

一参加者から「自分の経験や考え方を率直に語ってくださり、ふだん教会で伺えない話を聞けた貴重な機会」との感想も寄せられ、対面の講座ならではのわかちあいの恵みを味わえたのではないかと思います。

福音宣教企画室





## こんにちは シスター 共同宣教司牧担当者のシスターの紹介シリーズ

三重南部フィリピン人司牧担当

シスター ロサリオ・マカウィリ (無原罪の聖母フランシスコ姉妹会)

こんにちは、皆さん。フィリピンのラグナ州サンファンカラヤン出身のシスター ロサリオ・マカウィリです。シスターになって、早や31年がたちました。

私は神様が与えてくださった素晴らしい愛に応えるため、修道生活を選びました。来日したのは2010年7月30日です。初めての任地は奈良県でしたが、その後すぐに滋賀県に移り、メリノール会のジャクソン神父様のご指導の下で、思い出深い10年間を過ごさせていただきました。そしてコロナ禍の中、神様のお導きにより三重県に派遣されました。

十字架を伴わない栄光はありません。常に祈り、共同体生活をし、勉学に励み、自分自身を受け入れては赦し、自己啓発へと地道に歩んできました。こうしたステップが私を宣教活動の喜びへと導いてくれています。いつも一緒にいると約束してくださったイエス様を信頼し、私はこれからもこの道を歩み続けていくつもりです。



### 一日企画「みんなでBBQ！」報告

2024年7月6日、青年同士のコミュニケーションを深めるための一日企画としてBBQ大会を行いました。丹波教会亀岡聖堂にて、ホルへ神父様にメキシコ流で豪快なBBQを楽しませていただきました。大きくて分厚いお肉、あっさりしたグワカモレーディップ、ボリューム感の凄いブリトーなど、普段我々が友人達と行うBBQでは経験できないような料理を堪能しました。参加者、スタッフ、担当司祭全員で20人ほど集まりましたが、もれなく全員お腹いっぱいになり、大満足でした。ホルへ神父様、ありがとうございました！



初めて青年イベントに顔を出してくれた方も多く、今後もイベントがあれば参加したいと皆さんが言ってくれたので良かったです。皆さん、また会いましょうね！

10月には、一味違ったロザリオの祈りを一日企画として実施する予定です。詳細は、青年センター公式SNSをご確認ください。皆さんのご参加お待ちしております！

運営委員/西院教会 粟井 幹

## お知らせ

## 司 教

## 大塚司教の予定

最新の情報は京都司教区のホームページにてご確認ください。



## 教 区

## 聖書委員会

## オンライン聖書講座

「マルコ福音書を読む—  
まことのイエスと出会う」開講中  
問合せ：聖書委員会 075-223-3339  
seisho@kyoto.catholic.jp



## 広報委員会

教区時報11月号の原稿締切日は9月23日(日)です。  
下記までご連絡ください。  
honbu@kyoto.catholic.jp



## 京都司教区公式 Facebook ページ

Facebook に登録しておられる方は「カトリック京都司教区」で検索して、ぜひフォローしてください。  
更新は、京都司教区本部事務局が行っています。  
皆さまとともに歩めるよう、シノダリティの心で更新していきます。



世界代表司教会議(シノダス)  
第16回通常総会  
シノダス総会-第2会期

10月から始まる第2会期は、第1会期に続いて、日本から、議長代理・西村桃子さん、司教協議会日本代表・菊地功大司教、専門家およびファシリテーター・シスター弘田鎮枝さんが参加されます。総書記・ジャン＝クロード・オロリッシュ枢機卿も引き続きの参加です。総会のためにお祈りください。

皆さまのまわりに点訳版「京都教区時報」が必要な方がおられないでしょうか。点訳版「京都教区時報」をご希望の方がおられましたら、カ障連大阪フレンドリー点字部・笠松幸彦さんまでお申込みください。  
無料でお送りします。  
Tel・Fax/072-722-0271

## 諸 団 体

## 京都カトリック混声合唱団

9月8日(日) 14:00 聖歌練習  
9月28日(土) 17:30 練習後、ミサ奉仕  
場 所：河原町教会聖堂  
問合せ：075-951-4283 則武 隆

## コーロ・チェレステ (女声コーラス)

練 習：9月12日(日) 10:00 26日(土) 10:00  
場 所：河原町教会2階楽廊  
新会員募集中  
問合せ：075-561-5971 駒井和子

## 聴覚障がい者の会・京都グループ

## 手話ミサと黙想会

日 時：9月24日(日) 10:30 受付  
11:00 手話ミサ 柳本昭神父  
13:00 講話 菅原友明神父  
15:00 解散予定

場 所：メリノールハウス  
(大津市唐崎1丁目4-1)

参加費：1,000円 要申込み  
昼食、飲み物は各自持参  
申込み、問合せ：Tel・Fax 075-723-1135 傳 裕子

## 心のともしび

ラジオ番組案内(全国34局で放送)

9月のテーマ「生き抜く」

K B S 京 都 (日)～(金) 朝5:55

(土) 朝5:15

ラ ジ オ 関 西 (日)～(金) 朝5:00

(土) 朝6:05

毎 日 放 送 (日)～(金) 朝5:45

(土) 朝4:55



\* ホームページのアーカイブスに、ハヤット神父、シスター渡辺ほか、以前の執筆者のお話もあります。

